

平成 22 年度 大阪明星学園における学校評価についてのご報告

平成 22 年、学校教育法施行規則に則り、学校評価を実施しました。学校評価の目的については、文部科学省「ガイドライン」に従い

- ① 学校が運営目標を設定し、達成状況を把握・整理し取り組みの適切さを検証することにより、学校運営を組織的・継続的に改善すること。
- ② 学校が評価の実施とその結果を説明・公表することにより、保護者、地域住民の学校運営に対する理解と参画を得て、信頼される開かれた学校づくりを進めること。
- ③ 学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の必要な措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

の三点とし、本年度は昨年度までの教職員による自己評価に加え、あらたに、保護者・生徒による評価を、以下のとおり実施しました。

① 教職員による自己評価(アンケート方式)

評価対象期間 平成 22 年度(1 年間)

評価実施時期 平成 22 年 12 月 13 日～17 日

評価項目 「学校運営」「教育内容」「生徒指導・支援」「教員研修・資質向上」「その他」の分類で 19 観点 39 項目により評価しました。

② 保護者による評価(アンケート方式)

評価対象期間 平成 22 年度(1 年間)

評価実施時期 平成 22 年 11 月 11 日～26 日

評価項目 「学校運営」「教育内容」「その他」の分類で 13 観点 34 項目により評価しました。

③ 生徒による評価(アンケート方式)

評価対象期間 平成 22 年度(1 年間)

評価実施時期 平成 22 年 11 月 22 日のホームルーム

評価項目 「学校運営」「生徒指導・支援」「教育内容」「その他」の分類で 13 観点 15 項目により評価しました。

評価結果を教科、学年、各部においてそれぞれの立場でまとめあげ理事長(学校設置者)に提出、共通認識としてしっかりと受け止めるとともに、本学園生徒がより良い環境で教育活動を楽しむように学校運営の改善の方向性を確認、その改善に努力して参りたいと考えております。

以下、(1) 教職員による自己評価、保護者による評価、生徒による評価のアンケートの雛形 (資料 1, 2, 3)

(2) その分析と具件的方向性 (資料 4, 5)

の五点を添付いたします。

平成22年度 明星中・高 教職員自己評価アンケート（資料1）

※4—よくあてはまる、3—あてはまる、2—あてはまらない、1—全くあてはまらない。

	評価の観点	評価項目	番号	設問	4	3	2	1
学 校 運 営	スクール・アイデンティティ	建学の精神について	1	建学の精神が教職員、生徒、保護者など、学校関係者によく浸透している。				
		宗教的情操教育について	2	カトリックの理念に基づく教育に関して、教職員、生徒ともに理解している。				
		愛校心について	3	在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。				
	教育課程 カリキュラム	学習指導要領の対応状況	4	教育課程は文科省の学習指導要領に則り、対応を行っている。				
		教育計画について	5	年間を通じた教育計画を各教科別に立てている。				
	教職員連携	教員・教科間連携状況	6	教員間・教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づき教育活動が行われている。				
		教員と事務との連携	7	教員と事務職員との情報交換の機会があり、相互理解、連携はとれている。				
		会議の有効性	8	教職員会議をはじめ各種会議が有効・効率的に機能している。				
	経営関係	経営状況について	9	学校の経営に関して、理解し信任している。				
	情報管理	ホームページの活用	10	学校ホームページで可能な範囲の情報を開示している。				
		授業公開状況	11	保護者会を通じ、保護者などへ授業を公開している。				
	広報活動	受験者に対する広報	12	様々な媒体を通じ、学校の広報活動は適切に行われている。				
	危機管理	役割分担について	13	事故・事件・災害等に対処する役割分担がされている。				
		危機管理対応状況	14	危機管理マニュアルや警察・消防等との連携、訓練など安全対策が取られている。				
	保護者との連携	保護者との連携	15	後援会活動や保護者会を通じて、保護者との意思疎通は十分に図られている。				
	開かれた学校	地域との対応	16	地域や地域住民との連携対応がなされている。				
教 育 内 容	人権教育	教育体制	17	人権尊重の教育に関して、HRや様々な学習方法で意識を高める教育を行っている。				
		研究体制	18	人権尊重に関して、様々な課題や指導方法を教員が研究する体制がある。				
	国際化 グローバル化	国際理解	19	他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を採り入れている。				
		国際化への対応	20	留学制度の充実や外国人留学生の受け入れなどの対応を行っている。				
	情報教育	情報能力の育成	21	生徒の情報活用能力の育成を図っている。				
		情報モラル指導	22	情報の発信に伴う責任等情報のモラル面の教育に取り組んでいる。				
	生徒会活動	生徒会活動支援状況	23	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動出来るよう学校全体で支援している。				
		部活動	24	部活動は活発である。				
	ボランティア・慈善活動	奉仕活動について	25	小鳩会などを通じ、慈善・奉仕活動がよく努力されている。				
	生 徒 指 導 ・ 支 援	生徒指導	指導方針の一貫性	26	生徒指導は学校の方針・校則に従って進められている。			
生活指導について			27	生徒の生活指導に対して、組織的に対応する体制がある。				
家庭との連携状況			28	生徒指導において、家庭との連携が円滑に出来ている。				
生徒支援		学習指導について	29	学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。				
		進路指導について	30	生徒個々の興味・関心・適性に応じた進路選択が出来るようなキャリアガイダンス・支援体制がある。				
			31	補習や補講などの、生徒の成績向上のための措置が十分になされている。				
カウンセリング体制	32	カウンセリングマインドを採り入れた支援体制がある。						
教 員 研 修	教員研修	校内研修	33	効果的な校内研修計画を立案し、教職員に実施している。				
		校外研修	34	教員が計画的に校外研修を受ける情報並びに体制が整っている。				
		研修成果の共有状況	35	研修・研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報や内容を共有しあう体制がある。				
		教員間の資質向上について	36	教員同士で、授業内容を評価または意見交換など研鑽に努める機会をもっている。				
		教員間の親睦	37	教員間の親睦は十分に取られている。				
		初任者のサポートについて	38	初任者など、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある。				
そ の 他	登・下校	登・下校の生徒のあり方について	39	登・下校に際し、生徒指導は円滑に行われている。				
	美化意識	美化・清掃意識について	40	校庭・校舎内・教室等において清掃や美化意識の向上が図られている。				

※4—特にそう思う、3—そう思う、2—そう思わない、1—全くそう思わない。

	評価の観点	評価項目	番号	設問	4	3	2	1	
学校運営に関して	スクール・アイデンティティ	建学の精神について	1	建学の精神が保護者・子どもによく浸透している。					
			2	この学校には、他の学校にない良いところがある。					
		宗教的情操教育について	3	カトリックの理念に基づく教育に関して、理解し共感できる。					
			愛校心について	4	子どもは日々の学校生活に満足し、学校に誇りを持っている。				
				5	子どもがこの学校に入学してよかったと思う。				
	教育課程・カリキュラム	授業時数について	6	学校は、学力向上のため必要な授業時間数を確保していると思う。					
		講習・補習について	7	土曜セミナーは、内容・回数ともに充実している。					
	人権教育	人権教育の取り組み	8	学校は、子どもに人権を尊重する態度や意識を育てようとしている。					
	危機管理	危機管理体制	9	学校では、子どもの安全や健康の管理に常に配慮している。					
		危機管理対応状況	10	フェアキャストにより確実に緊急情報が知らされ、安心できる。					
	学校と家庭の連携	学校と保護者のあり方	11	学校は保護者の悩みや相談、問い合わせに丁寧に対応している。					
		情報伝達・公開の度合い	12	必要な情報がプリントなどを通じて必ず家庭に伝達されている。					
			13	プリントやホームページには可能な限り目を通してしている。					
		教育目標の明示	14	学校は、学校や学級の目標についてはっきり示してくれる。					
		後援会活動について	15	後援会活動の理念に共感できる。					
教育内容について	教科指導	授業内容について	16	子どもは、授業で知的好奇心が刺激されていると思う。					
			17	教員は、授業に熱意を持ってのぞみ、さまざまな工夫をしていると思う。					
		学習習慣について	18	教員は、適切な課題を与え、学習習慣が身につくよう指導している。					
		教科の指導について	19	教員は、子どもの質問にも丁寧にわかりやすく指導している。					
			20	教員は、個別指導を行うなど、学力向上に向け熱心に指導している。					
	評価について	21	教員は、子どもの学力や努力面において公平に評価してくれている。						
	学級経営	教員の姿勢について	22	学校には熱心な先生が多いと思う。					
		保護者会について	23	保護者会は回数・内容とも満足している。					
		面談について	24	担任との面談や電話相談など、対話する機会が十分にある。					
	生活指導	生活指導の理念について	25	学校の生活指導(服装・頭髪検査・あいさつなど)には共感できる。					
		指導の状況	26	学校は、子どもに規範意識や生活習慣が身につくよう指導している。					
		携帯電話について	27	携帯電話のマナーや使い方について家庭でも話し合っている。					
		指導の体制	28	学校は、子どもの悩みや相談に親身に応じてくれている。					
	進路指導	進路指導の理念について	29	学校は、子どもの進路について、個別に親切に指導している。					
		キャリアガイダンス	30	子どもの進路学習についての情報は十分に与えられている。					
		家庭での状況	31	進路について、家庭で話し合う機会がある。					
	課外活動	小鳩会活動について	32	小鳩会活動を通じて子どもに奉仕の心が身についている。					
		生徒会活動について	33	生徒会活動や、学校行事はさかんである。					
		部活動について	34	部活動はさかんに行われている。					
	学校行事	研修旅行について	35	研修旅行は、回数・費用とも満足している。					
		学校行事について	36	学校行事は充実し、様々な経験ができるように工夫されている。					
その他	教育環境	美化について	37	学校はいつも清掃され、清潔である。					
		設備について	38	学校の施設や設備はよく整備されている。					
	家庭の状況	家庭での会話	39	家庭では、子どもとのふれあいや会話を持つよう努力している。					
			40	子供の悩みや相談について聞く機会がある。					

※4—特にそう思う、3—そう思う、2—そう思わない、1—全くそう思わない。

	評価の観点	評価項目	番	設問	4	3	2	1	
学校運営	スクールアイデンティティ	建学の精神について	1	建学の精神について、よく理解できていると思う。					
			2	この学校に入学してよかったと思う。					
			3	明星には他の学校にない良いところがあると思う。					
			4	毎日の学校生活に満足し、学校に誇りを持っている。					
	情報公開	情報公開	5	必要な情報について、必ずプリントなどで確認している。					
	安全管理	安全管理	6	先生方は常に生徒の安全や健康に配慮している。					
	人権教育	人権意識	7	学校の人権HRなどを通じて、人権について学ぶ機会が十分にある。					
生徒指導・支援	生活指導	規範意識	8	あいさつは自分から心がけてしている。					
			生活指導	9	服装や髪型など、学校の規則を進んで守っている。				
				10	学校の校則は社会に出てからも役立つことだと思う。				
				11	携帯電話のマナーや使い方について家庭でも話し合っている。				
	進路指導	進路指導	12	スクールカウンセラーの利用の仕方を知っている。					
			13	先生方は自分の適性や長所を理解していると思う。					
14			自習室の利用の仕方を知っている。						
15			進路指導室を利用したことがある。						
			16	将来就きたい仕事や進みたい分野がある。					
教育内容	授業内容・授業の質	授業	17	授業内容は全体としてわかりやすい。					
			18	授業には私語や居眠りなどせず、真剣に臨んでいる。					
			19	予習・復習など授業の準備を行っている。					
			20	宿題は必ず期日を守って提出している。					
			21	小テストは事前に準備をして取り組んでいる。					
			22	定期試験には少なくとも二週間前から計画的に取り組んでいる。					
			23	模擬試験などは必ず事前の対策や事後の復習を行っている。					
			24	わからないところは先生に質問している。					
	25	土曜セミナーは積極的に参加している。							
	学校行事	学校行事	26	学園祭は充実していて、楽しく参加できる。					
			27	体育大会は充実していて、楽しく参加できる。					
小鳩会	小鳩会	28	毎月の小鳩会献金に協力している。						
部活動	部活動	29	クラブ活動がさかんだと思う。						
		30	クラブ活動のための施設が充実していると思う。						
その他	美化意識	清掃活動	31	掃除用具を丁寧に扱い、まじめに掃除している。					
			32	ゴミは出さないように心がけている。					
	学校設備	設備など	33	図書館をよく利用する。					
			34	図書館の本は十分そろっている。					
			35	食堂をよく利用する。					
			36	食堂のメニューは味・量とも満足している。					
	自己について	思春期の課題	37	保護者とよく話をしている。					
			38	悩みを相談できる先生や大人がいる。					
39			悩みを相談できる友達がいる。						
40			友達は多い方だと思う。						

平成22年度 学校評価（教員による自己評価）の概略について（資料4）

六ヶ年一貫の観点から明星学園(明星中学校、高等学校)として自己評価を実施しています。

評価項目	評価と方向性
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・本校のスクール・アイデンティティである建学の精神・カトリックの理念に関して、生徒に十分浸透していないのではないかと回答が多かった。平成23年度も、教職員一日研修会を実施し、カトリックの教育理念である「愛と正義に裏打ちされた人格形成」が「明星がめざす人物像」であることを、もう一度教職員間でも再確認した。さらに生徒たちにも核となって社会に奉仕することのできる「明星紳士」の育成をめざして具体的な方策を検討してゆかなければならない。 ・「教育課程」については、科目読み替えや未履修の科目もなく、学習指導要領は遵守をしており、さらに主要科目は定められた時間以上の時間数を確保、余裕のある授業を実施している。また各教科とも年間教育計画(シラバス)を作成、年次毎に見直しており高い評価であった。これからも、学年に応じた学力目標を設定し、各教科間の連絡も密にとりながら「質の高い」、「密度の濃い」授業が実践できるようなカリキュラムの構築を進めたい。 ・危機管理については、火災・地震災害に対する避難訓練を実施しているものの日常のその他対応マニュアルの点で危機管理不足が評価に表れている。危機管理マニュアルを作成したが、さらに教職員全体への啓蒙を図ってゆきたい。
教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育においては、年5回人権ホームルーム、年1回映画鑑賞を実施するなど計画的に人権教育がなされており、高い評価と考える。 ・国際化への対応については、平成24年度より夏季休暇中に希望者対象に海外短期留学(語学研修)を実施できるよう計画中である。 ・情報教育については、「情報」として授業を実施している。モラルの低下に伴ないサイバー犯罪が蔓延している現代社会において情報モラルの向上が指摘された。情報の授業でも技術指導のみならず情報モラル向上の指導も図ってゆきたい。 ・クラブ活動は活発であり評価が高かった。また、慈善事業として「小鳩会」を設置しており全生徒が会員である。毎月の募金活動や「米一合」運動の奉仕活動などが行われており慈善活動については高い評価が得られた。
生徒指導 生徒支援	<ul style="list-style-type: none"> ・毅然とした生活指導の方針は一貫しており、生活指導が組織的に行われていること、また、スクールカウンセラーも2名来てもらい生徒支援を行っていることもあり、生活指導・生徒支援については高い評価を得た。教員間での温度差のない一貫した指導を徹底してゆきたい。 ・進路指導についても、ホームルームで将来に向けての「キャリアガイダンス」の実施や大学の先生等による講演会、年間計画された外部の学力(模擬)テストの実施などの進路指導支援についても高い評価であった。 ・多種多様な価値観があふれている現代にあって自分をしっかり見つめ、正しい価値判断ができるように教職員全体で生徒指導、生徒支援を図っていく方策をさらに模索してゆきたい。

教員研修 資質向上	教員研修に対する取り組みについては低い評価が出た。引き続き、研修運営委員会で年間の教職員研修の企画、運営を実施、また、校外で実施される研修についても参加した教員から全教職員に報告する研修報告をもち情報の共有化を図っていく。教員の「教育力」の資質向上をめざしてさらに研修を充実させる予定である。
その他	生徒の美化意識の低下、登下校のマナーの低下が評価でも確認された。教室の清掃の徹底を図り美化意識の向上を図るとともに、通学路を示したプリントを配布し登下校のマナーについて指導した。近隣の方々や通勤されている方々に迷惑のかからないように、さらに登下校のマナーについての指導をしっかりとそして地道に続けていく方針である。

平成22年度 学校評価（生徒および保護者による評価）の概略について（資料5）

六ヵ年一貫の観点から明星学園(明星中学校、高等学校)として評価を実施しています。

評価項目	評価と方向性
学校運営	<p>本校のスクールアイデンティティであるカトリックの教育理念に関しては、大部分の保護者にご理解いただけているとの結果であった。しかし、生徒・保護者ともその理念の浸透という点に関しては十分ではないという意見が多く、この点は今後の課題であり、カトリック理念のより深い浸透を図る必要がある。学校長から直接語りかける機会を増やすため、全校朝礼の回数を増やすなどしているが、平成23年度はさらにこれを進めると同時に、始業式・終業式をマリアンホールで行うなどの改革を行う。</p> <p>次に、カリキュラムに関しては授業時数に関して不足と考える保護者の意見が少なくない中で、平成24年度から週6日制を実施する予定であり、新カリキュラムの作成など万全の準備を進めていく予定である。</p> <p>情報公開及び生徒の安全管理という点に関しては、登下校に際し、マナーの向上という問題に取り組むためにも、生活指導部を中心とした指導が行われているが、こうした点が一定の評価を得ていると考えられる。また、一昨年度より導入された緊急連絡網も有効に機能したと考えられる。一方で、生徒側の意見と保護者側の意見については食い違いが多く、生徒に対して配布する保護者向けのプリントがきちんと家庭に届いているのか、保護者会などで呼びかけていくつもりである。</p>
教育内容	<p>生徒の意見として、定期試験・模擬試験への取り組み、予習や復習の取り組み、小テストへの取り組みという点に関して十分にできていないという意見の割合が、予想を上回る結果となった。また、補習などの数については保護者の側から物足りないという意見も多かった。成績下位者に対するケア、指導を、より積極的に行っていききたい。</p> <p>また、生活指導については多くの保護者の肯定的な意見がある中、生徒の側には校則への理解が薄く、この点はより積極的に生徒に働きかけていく。</p> <p>学校行事については、より生徒が積極的に参加できるような内容も考えていく必要がある。また、校内の美化については保護者の側から理解は得られているものの、それが生徒の美化意識の向上につながっているかは結果から考えうるに疑問であるが、一方で、クラブ生徒が早朝に学校のまわりのゴミ拾いに取り組むなど、徐々に美化意識の向上が見られるようになった。</p> <p>学校の根本は授業であり、「授業を大切に」と、学校長が折に触れ全校朝礼などで生徒に発信したが、今年度も学校長以下、全教員がこの呼びかけを行い、同時に、研修・研究授業等を通じ教員側の授業力向上を図っていききたい。また、学校行事に関する見直し等も行っていく。</p>
その他	<p>保護者の側からは、家庭で積極的に生徒と話の機会を設けている、との意見が多かったが、実際に生徒側でそう受け止めている数は少なかった。こうしたギャップの部分は今後保護者会などで伝えていく予定である。</p>